アメリカの共同保存書庫

～ Washington Research Library Consortium（アッパーマルボロ）、ReCAP（プリンストン）、Five College Library Depository（アマースト） ～

２０１４年１月５日（日）～12日（日）

（附属図書館館長）佐野　充、（附属図書館情報管理課資料管理掛）村西 明日香、
（理学部・理学研究科・多元数理科学研究科図書掛長）揚野 敏光、（財務部財務課課長補佐）伊藤　誠、
（施設管理部施設企画課調査企画掛長）新美 雅則、（施設管理部施設管理課電気整備掛長）白髭 民夫

目次

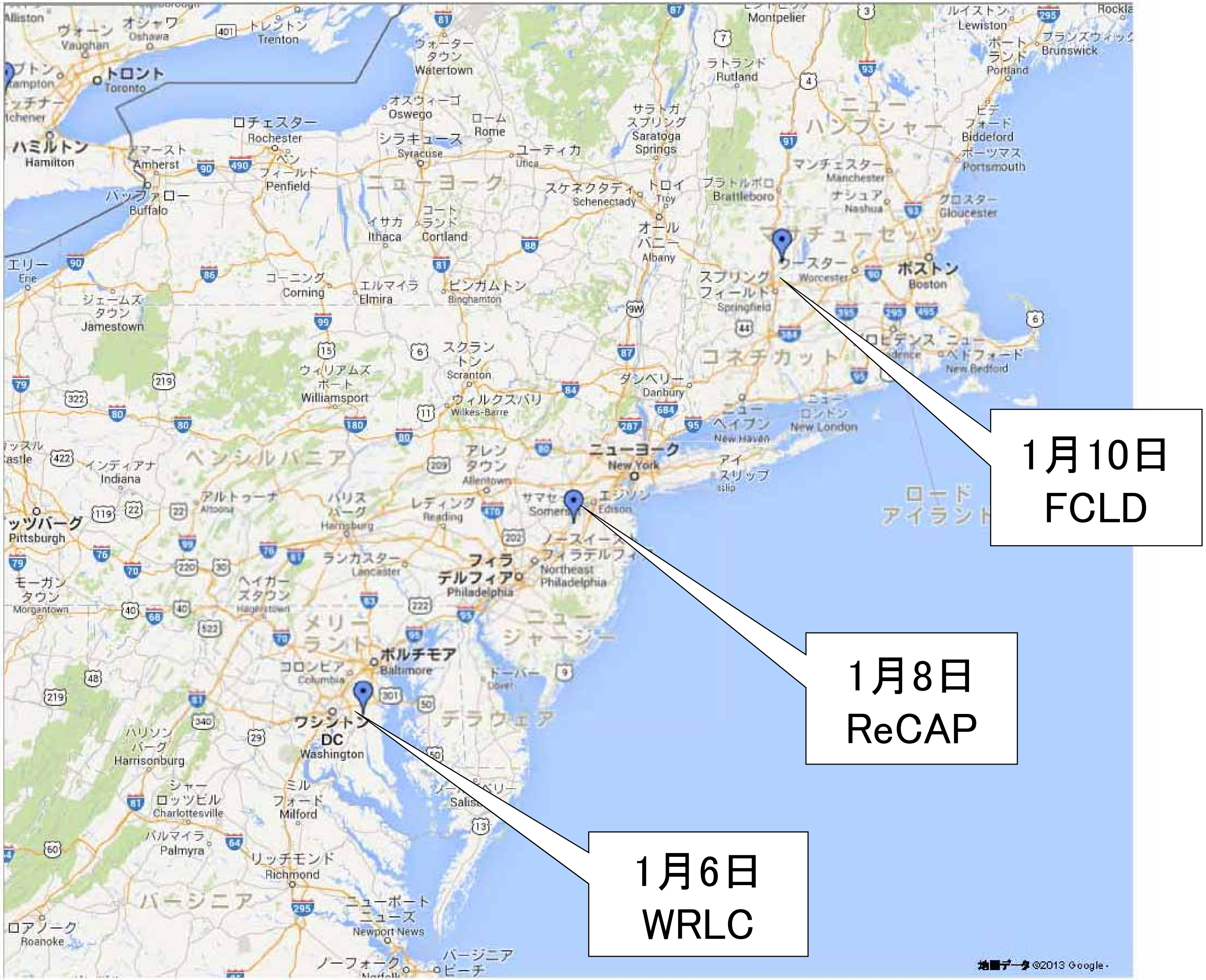
1. 目的
2. スケジュール
3. WRLC（Washington Research Library Consortium）
4. ReCAP（Research Collections and Preservation Consortium）
5. Five College Library Depository
6. 共同書庫の必要性と課題

目的

共同保存書庫の先進事例を視察し、情報収集を行う

- 東海北陸地区大学間の共同保存書庫を構想中
- 日本には共同保存書庫は存在しない

スケジュール


1月10日
FCLD
1月8日
ReCAP
1月6日
WRLC
トロント
Toronto
ロチェスター
Rochester
シラキュース
Syracuse
バッファロー
Buffalo
ボストン
Boston
ニューヨーク
New York
フィラデルフィア
Philadelphia
ボルチモア
Baltimore
ワシントン
DC
Washington
リッチモンド
Richmond
ピッツバーグ
Pittsburgh
地図データ ©2013 Google

参加機関（9機関、私立7校、州立2校）

- アメリカン大学（私立）
- アメリカ・カトリック大学（私立）
- ギャローデット大学（私立）
- ジョージ・メイソン大学（州立）
- ジョージ・ワシントン大学（私立）
- ジョージタウン大学（私立）
- ハワード大学（私立）
- メアリーマウント大学（私立）
- ディストリクト・オブ・コロンビア大学（州立）

WRLC

PRIVATE
PROPERTY
WASHINGTON
RESEARCH
LIBRARY
CONSORTIUM

WRLC

WRLC

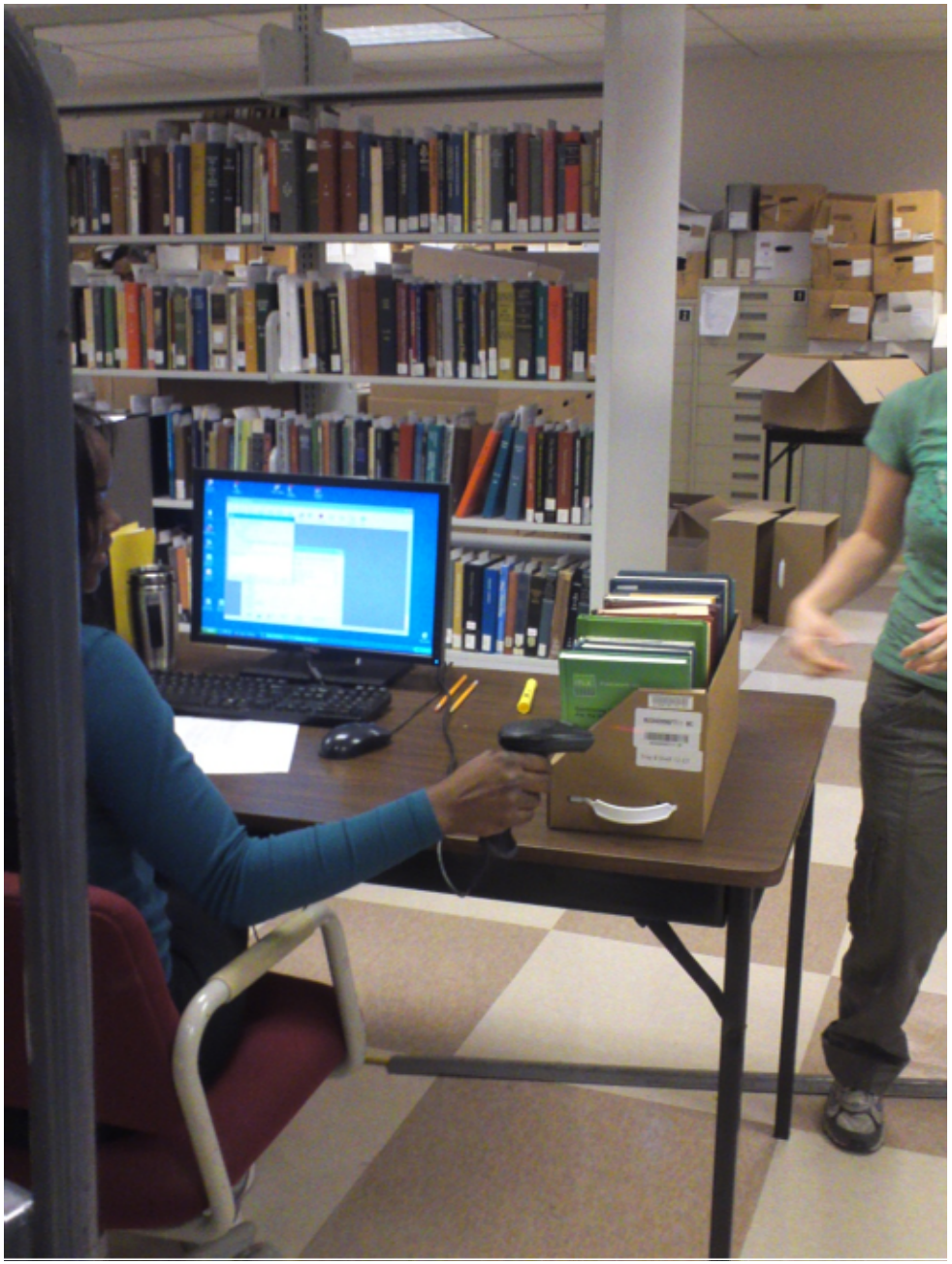
WRLC

モジュール1　1994年稼働開始　約1,100㎡
モジュール2　2010年稼働開始　約1,100㎡
モジュール3　2014年3月着工　約1,300㎡
業務エリア　約　600㎡
合計　約4,100㎡

WRLC

Trays A+B
6.5" handles
Trays C,D,E,H
~6.5" handles

WRLC



WRLC

WRLC

436196308
R10M02S05T04
Tray B Shelf 12
R10M02S05T05
Tray B Shelf 12
R10M02S05T06
Tray B Shelf 12
Proceedings

- キャパシティ
  - 2モジュールで約300万冊
  - 3モジュールで約500万冊

- 書庫の環境
  - 温度15℃　湿度40%（議会図書館　温度10℃　湿度30%）
  - 空調は24時間365日稼働

参加機関（3機関、私立2校、公共図書館1機関）

- コロンビア大学（私立）
- プリンストン大学（私立）
- ニューヨーク公共図書館

ReCAP

ReCAP

ReCAP

モジュール1～3	2002年稼働開始	約1,400㎡
モジュール4	2005年稼働開始	約1,400㎡
モジュール5	2008年稼働開始	約2,500㎡
モジュール8～9	2013年稼働開始	各2,600㎡

ReCAP

ReCAP

ReCAP

- キャパシティ
  - 7つのモジュール全体で約1,750万冊
  - 最大3,750万冊までモジュール増設可能
- 書庫の環境
  - 温度15℃　湿度35%

参加機関（5機関、私立4校、州立1校）

- アマースト大学（私立）
- ハンプシャー大学（私立）
- マウントホリヨーク大学（私立）
- スミス大学（私立）
- マサチューセッツ大学アマースト校（州立）

FCLD

FCLD

FCLD

1. 軍隊から政府に売却
2. 政府からボストン銀行に売却
3. ボストン銀行からアマースト大学に売却
4. アマースト大学が図書館の書庫として改修
5. 書庫内の10,000平方フィート（929㎡）をコンソーシアムが借用
   5大学のデポジトリとして利用開始

- キャパシティ
  - 50万冊

- 書庫の環境
  - 温度20℃　湿度45%

FCLD

FCLD

UA 2 712
UA 2 713
UA 2 714
UA 2 717
UA 2 718
UA 2 722
UA 2 723
UA 2 727
UA 2 728
UA 2 732
UA 2 733

FCLD

3機関と名古屋大学の比較

	WRLC	ReCAP	FCLD	名古屋大学
参加機関数	9	3	5	
学生数	11万人	37,000名	37,000名	16,254名
教員数	9000名	2000名	2,000名	1,688名
蔵書数	1,200万冊	7,700万冊（うち2大学で2,600万冊）	1,000万冊	3,195,432冊
共同保存書庫の収容可能冊数	300万冊（2014年秋に500万冊の予定）	1,750万冊	50万冊	
書庫面積	2,200㎡	11,730㎡	929㎡	
温度	16℃	15℃	20℃	
湿度	40%	35%	45%	

図書館における書庫の必要性とは？

【現状】図書館は資料であふれている

１．新しい資料は増え続ける

- 資料は教育研究を支える基礎
- 電子資料は増えているが、紙の資料がまだ主流

２．資料は捨てられない

- いつか誰かが必要になる資料かもしれない
- 知識、記録を後世に継承する使命がある
- 蔵書数は大学評価・資産価格に影響する

図書館における書庫の必要性とは？

【解決策】書庫の活用

- 新しい資料、よく使われる資料は図書館で活用
- あまり使われなくなった資料は書庫で保存、リクエストに応じて取り出して利用

書庫を活用するメリット

1. 図書館に新たなスペースが生まれる

- 学修支援、研究サポートなど新たな図書館サービスの可能性
- 図書館を「知識をもらう場所」から「知識をつくる場所」へ

  例：マサチューセッツ大学アマースト校

2. 安全で確実な保存ができる

- スペースの制約による資料の廃棄を回避できる
- 利用者がいることを想定しないため、資料保存に最適な温度・湿度にできる

共同保存書庫を活用するメリット

１．建設コストの削減

- 各大学に対して書庫建設の予算措置がされることは考えにくい

２．保存コストの削減

- 各大学が書庫に移した資料の中に、重複するものがあれば1冊だけ残す

３．資料へのアクセス環境の向上

- 他大学が書庫に移した資料を、自分の大学の資料と同じように活用できる

共同書庫の課題

書庫内の資料の配送スピード	必要なときにすぐに利用できないと支障が出る
書庫内の資料の所有権	預けた大学にあるのか、共同保存書庫（複数大学の連合体）にあるのか
建設費	一つの大学が負担するのか、各大学が負担するのか （例：各大学の専有スペース（冊数）に応じて負担）
運営費	各大学が平等に負担する仕組づくり （例：均等負担／学生数に応じて経費按分）
ポリシーやルールの確立	制度や規則の整理
所蔵データの整備の遅れ	遡及入力ができていないものがまだ多い
既存図書館の利用方法	新たなスペースの利用方法を含めた、各大学図書館の新しいビジョンを検討する必要